

令和4年度厚生労働行政推進調査事業費  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
ASEANにおける活動的で健康的な高齢期の推進に関する研究(20BA2002)  
分担研究報告書

「改訂版ASEAN-JAPAN Healthy & Active Ageing Index (HAAI)に  
関するASEAN諸国の高齢化対策の参考事例のまとめ」

研究分担者	佐々木由理	(国立保健医療科学院 主任研究官)
	林玲子	(国立社会保障・人口問題研究所 副所長)
	荒井秀典	(国立長寿医療研究センター 理事長)
	菖蒲川由郷	(新潟大学大学院医歯学総合研究科/十日町いき いきエイジング講座 教授)
	中川雅貴	(国立社会保障・人口問題研究所 第1室長)
研究代表者	曾根智史	(国立保健医療科学院 院長)
研究協力者	綿引信義	(国立保健医療科学院 客員研究員)

#### 研究要旨

6領域43指標からなる改訂版ASEAN-JAPAN HAAIの各指標の数値を改善する方法を検討するために、ASEAN諸国の高齢化対策の事例を収集・整理し、各領域で特にイノベーションがあり、指標改善に役立つと考えられる事例を抽出した。

事例収集には、公益財団法人日本国際交流センター(Japan Center for International Exchange: JCIE)ならびに東アジア・アセアン経済研究センター(Economic Research Institute for ASEAN and East Asia: ERIA)が、日本政府によるアジア健康構想(Asia Health and Wellbeing Initiative: AHWIN)の一環として共催する、アジア各国から健康長寿の達成、高齢者ケアの向上に資する取り組みを募集・表彰するアジア健康長寿イノベーション賞(Healthy Aging Prize for Asian Innovation: HAPI)において表彰された事例などを活用した。改訂版ASEAN-JAPAN HAAIの領域1.政策および統計、領域2.所得および生活保障、領域3.健康および生活の質、領域4.ソーシャル・キャピタル、領域5.能力を生かせる環境、領域6.COVID-19に対して合計38事例を収集した。そのうち、領域ごとに特に重要と考えられたいくつかの事例を抽出した。

改訂版ASEAN-JAPAN HAAIのいくつかの指標に対して、改善に結びつくことが期待される事例が存在した。また、これらの各事例は1つの指標にとどまらず、別の指標の改善にも寄与する可能性が考えられた。今回収集した事例が、具体的に指標の改善にどの程度寄与するのかというエビデンスの構築が今後の課題であると考えられる。

上記の結果について、改訂版ASEAN-JAPAN HAAIに関するガイドの第4章にまとめた。

## B. 研究目的

6 領域 25 指標からなる ASEAN-JAPAN Healthy & Active Ageing Index 2017 (ASEAN-JAPAN HAAI 2017)に沿って、ASEAN を中心としたアジアの高齢化の状況について、国際機関や各国政府のウェブサイト、報告書、論文を通じて情報収集し、既存の高齢化指標との比較を行うなどして、研究班全体で指標の改訂案を検討した。6 領域 43 指標からなる改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI の各指標の改善に寄与すると考えられた 38 の先行事例のうち、特に各領域でイノベーションがあり、指標改善に役立つと考えられる事例について、改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI のガイドで紹介することを目的とした。

## F. 研究方法

事例収集には、公益財団法人日本国際交流センター (Japan Center for International Exchange: JCIE)ならびに東アジア・アセアン経済研究センター (Economic Research Institute for ASEAN and East Asia: ERIA) が、日本政府によるアジア健康構想(Asia Health and Wellbeing Initiative: AHWIN)の一環として共催する、アジア各国から健康長寿の達成、高齢者ケアの向上に資する取り組みを募集・表彰するアジア健康長寿イノベーション賞 (Healthy Aging Prize for Asian Innovation: HAPI) において表彰された事例などを活用した。また、研究者間で話し合い、その中で挙げたキーワードを基に検索し、主にアジア諸国で行われている活動で該当した事例を、高齢者に特化した例ではなくても、改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI の指標の改善に寄与すると考えられる場合は追加した。更に、研究分担者 (菖蒲川) らによって、ミャンマーの地域在住高齢者に対して実施された訪問調査に基づく事例も 1 件追加した。

(倫理面への配慮)

一般公表されている報告の利用に沿って実施されたものであり、倫理的配慮を要しない。なお、事例の使用にあたっては、公益財団法人日本国際交流センターの承諾を得た。それぞれ使用した事例について、参考としたページの URL を付記した。

## G. 研究結果

「領域 1. 政策および統計」では、多部門領域の連携やヘルスケアに関わる計 3 事例、「領域 2. 所得および生活保障」では高齢者も活用できる銀行口座システム、携帯サービスのアプリ活用の計 2 事例、「領域 3. 健康および生活の質」では、障がいや (手段的) 日常生活活動[(i) ADL]、認知症、主観的健康観、介護に関わる計 6 事例、「領域 4. ソーシャル・キャピタル」では、社会活動への参加や地域の信頼に関わる計 5 事例、「領域 5.能力を生かせる環境」では、生涯学習に関わる 1 事例、「領域 6.COVID-19」では、パンデミックの際の高齢者ケア、ニーズ対応に関わる計 2 事例を抽出した。

(各事例の詳細は添付資料 1 の改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI のガイド抜粋を参照)

## H. 考察

改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI のいくつかの指標に関わりがあると考えられる参考事例が存在していた。一方、指標によって、事例が多数存在しているものもあれば、全く事例があてはまらないものもあり、ばらつきがあった。例えば、領域 4 の「社会活動への参加」については事例が多く存在していたが、領域 2 の「食料不足」に関しては、直接的に関連が考えられる事例が見当たらないといったことがあった。これにはシステム導入や、地域介入などを含めた取り組みを実施した場合に、改善が見えやすいと期待できる指標と、そうではない指標、あるいは改善のための介入が困難な指標が存在するからではないかと考え

られた。また、今回収集したのは38事例に留まる。特に、今回、関連する事例がなかった指標については、更に情報収集を行い、改善の方策について検討することが必要である。

また、本章では、選択された1指標に対して、特に改善が見込まれると考えられる1事例を当てはめているが、必ずしも1指標1事例の関係ではなく、1つの事例が別の指標の改善にも関わる場合もある可能性が考えられた。

事例には、地域レベルで展開されているものから、国レベルで展開されているものがあった。各国、各地域で事例を参考とする際には、それぞれの社会的、経済的、文化的な背景を考慮しながら、どのレベルで実施できるのかを精査する必要がある。また、挙げた事例には、自治体、一般市民、宗教団体、民間セクター、メディア、地方の医療従事者などを巻き込んだものが多く、官民連携が機能していることや、各省庁がそれぞれの役割を明確にして施策を展開していることが、成功の鍵になると考えられた。

更に、ICT (Information and Communication Technology) を活用した高齢者の見守りや、公共スペースなどへの移動の事例も挙げられた。ICTの利活用は、居場所と役割の形成、コミュニケーションや活動の増加、健康面の改善、楽しみ・喜び・刺激・安心感の提供という効果が期待できると報告されている ([https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/b\\_free03\\_3.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/b_free03_3.html))。今後は、ICTの利活用が改訂版 ASEAN-JAPAN HAAI の向上、つまりは、高齢者本人の直接的あるいは、間接的な介護予防や健康改善に欠かせないものになると思われる。将来的には、介護負担の軽減にもつながることが期待されると考えられた。一方で、ICTを利活用する上で、財源や個人負担に加え、個人情報・利用者情報の取り扱いや利用者のプライバシーの配慮、匿名性と有

用性の整理が必要であると考えられる。

今回は、指標との関連が期待される事例を挙げたが、こうした事例を提示することで指標のイメージが明確になると考えられる。事例で挙げられたイノベーションが具体的に指標の改善にどの程度寄与しているのかといったエビデンスの構築は今後の課題である。

【謝辞】事例の使用にご協力をいただいた、公益財団法人日本国際交流センターに深謝いたします。

## I. 研究発表論文

論文発表 (英文)

(1) Yuri Sasaki, Yugo Shobugawa, Ikuma Nozaki, Daisuke Takagi, Yuiko Nagamine, Masafumi Funato, Yuki Chihara, Yuki Shirakura, Kay Thi Lwin, Poe Ei Zin, Thae Zarchi Bo, Tomofumi Sone, Hla Hla Win. Association between happiness and economic status among older adults in two Myanmar regions. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2022, 19(6), 3216. <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC8951419/>